vol.54-03（通算 612 号）　2024 年 6 月号

やどかり

2024 年 6 月 15 日発行
（毎月 1 回 15 日発行）
1987 年 12 月 19 日第三種郵便物認可
発行人　公益社団法人やどかりの里
代表者　増田　一世
〒 337-0043 さいたま市見沼区中川 562
TEL　048 - 668 - 0494
FAX　048 - 747 - 7030
URL　https://www.yadokarinosato.org/
定価　50 円（含会費）

働くことの意味を問う

精神障害のある人と働くエンジュの活動から

現在，わが国では，障害者総数約 1,160 万人中（精神 614.8 万人），18 歳から 64 歳の在宅者数約 480 万人（厚労省：就労支援施策の対象となる障害者数より）このうち，福祉的就労の場で働いている障害のある人が 81 万人（2022 年 9 月）以上である．一方で，民間企業等で働いている障害のある人は 64 万人以上．

精神障害のある人の就労は，勤務時間，作業環境，支援内容などを工夫することで，利用者の職業選択の幅が広がり，「働く」ことが実現する．「働く」ことの原点はお金だけではない．やはり人間は「働く」喜びを実感することが大切であり，「働く」ことは人間にとって大切な営みであり，すべての人が「働く」権利を持っている．

1997 年から高齢者へのお弁当宅配サービスを担っているエンジュは，福祉的就労の場であり，多様なメンバーが働いている．その 1 人，エンジュ開設準備グループ（1997 年）から関わってきたメンバー M さんがいる．当初は「働く」ことへの意識は弱かったようだが，給与をもらうようになり，積極的に委員会活動に参加し「メンバーも仕事の仲間なんだ」と強く思うようになったという．「与えられた仕事をこなす」から，「職員との協働」を意識するようになり，「自分で仕事を探す」と主体的に取り組むようになり，一番の働き手となった（参考：お互いに成長してきた 3 年間；響き合う街で No17）．しかし，その後体調を崩し入院．退院後は思うように体も動かず，生活訓練を行いながらエンジュへの復帰を目指した．しかし，歩くことの不安，転倒リスク，5 分と持たない集中力等課題が残ったが，ピアサポーターの力を借り，週 1 日 30 分の仕事に復帰した．久しぶりに仲間と働く達成感，自分の居場所に戻れた安心感からか笑顔が見られ，何ものにも代えがたい日となった．

エンジュの実践から「働く」と言っても，その働き方はさまざまである．それぞれに合わせたシフトを組み，それが 30 分でも，その時間にその人が洗い物を担うことで事業展開が可能になる．各々ができるところから作業に携わり，メンバーも職員も声を掛け合って 1 つのことをやり遂げる．「働く」ことは自分自身と向き合い，ともに学び，成長する場を創り合うことなのだ．同じ障害のある仲間や職員と肩を並べて働く中で，自分のやりがい，いきがい，居場所となり，意思決定できるようになる．たとえ 1 日 30 分の仕事でも生活リズムの確立によって体力づくりにつながり，収入を得て，自分の役割や意義を認め満足感とともに仲間との連帯も生まれてくる．心理的，社会的に大きな相互作用が生まれる．障害のある人たちにとって働きやすい職場は，すべての人にとって働きやすい職場となろう．大切なことは，仕事に人を合わせるのではなく，目の前にいる人に合わせて，仕事のやり方を工夫し変えていくことにある．また夢を応援してくれる環境も働く上で大切な要素だ．すべての人が「働く」喜びを実感できる社会をこれからも目指したい．

（金子　猛）